



「大学闘争 50 年を振り返って」

問題提起者：長谷川 宏さん（哲学者）

日時：2019 年 11 月 17 日（日） 13:30～16:30

会場：文京区シビックセンター

参加者：12 名

問題提起要旨：1968～9 年に日本各地に広まった「大学闘争」とはいったい何であったのか？ 当時の学生たちは何を目指し、なぜ挫折をしたのか？また、大学闘争の担い手や大学自体もその後どのような経過をたどったのか？ 50 年前の大学闘争の経験を踏まえて在野での思索を続けるとともに独自の教育を実践してこられた哲学者の長谷川宏さんを囲んで、以下の二つのテキストを読みながら、戦後史のなかでの大学闘争の意義を批判的に検証し、その残された課題を今日につなげることによって現代における大学や知の在り方の問題点を浮き彫りにします。（参加にあたりましては、以下の 2 点を予めお読みいただくことを前提とさせていただきます。）

- ① 長谷川宏著『同時代人 サルトル』（河出書房新社又は講談社学術文庫）の第 3 章「知識人の孤独」
- ② 竹内芳郎編『討論』（閏月社）の第Ⅲ部 A「全共闘運動—その評価をめぐる激論」